



1月23日(金) 11時半~14時



COCO mone

ふわっと食感のパンケーキに、旬の果物と濃厚な2種のクリームを重ねた贅沢デザート。こだわりの生地と季節のフルーツやクリームで、満足感たっぷりの一品。



2月27日(金) 11時半~14時



COREM COFFEE

本格エスプレッソマシンで淹れた挽きたての香り高いコーヒー。



nimes

人気のキッシュ、スコーン、米粉カヌレ、焼き菓子が並びます。

開催場所 掛川東病院正面玄関前  
地域の方もお越しください!

ごっだん とは? 「仕事に楽しみを」毎月、職員や近隣事業所向けに開催されているイベント。美味しい飲み物や食べ物を囲み、気軽に話することができるきっかけ作りを目的としています。

# そうせい

1  
2026

No.32

医療法人社団 綾和会 掛川東病院 桔梗の丘 広報誌

## 新春に寄せて、皆さまへ

「選ばれる病院」であるために

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。  
皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。急速な高齢化は、今や世界共通の課題です。そうした中、昨年当院の取り組みが国際的な評価をいただきました。これは、私たちがこの掛川で日々実践しているケアが、これからの長寿社会において「世界の財産」になりうるという、確かな誇りと与えてくれました。この誇りを原動力に、本年は「患者様・職員・地域から選ばれる病院」というVisionの実現を強く推し進めます。追求するのは、以下の3点です。  
「患者様から選ばれる、質の高い医療・介護」「職員から選ばれる、働きがいのある職場環境」そして「地域から選ばれる、持続可能な支え合いの文化」です。  
今年は受け入れ体制を強化し、より幅広い患者様に安心をお届けすると同時に、ケアを担う職員、そして舞台となる地域も同じように大切にまいります。地域に根差した実践こそが未来の豊かさへの貢献になると信じ、持続可能な医療への挑戦を続けてまいります。本年も変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



医療法人社団綾和会  
掛川東病院 院長  
宮地 紘樹

お問い合わせはお気軽にどうぞ!

## 地域を支える 仲間募集

掛川東病院では医療介護を通じて地域の皆様が安心して暮らせる環境を一緒に作る仲間を募集しています!



まずは見学でもOK  
お気軽にお問い合わせください  
☎ 0537-23-7111 (市野)

## Instagram

当院の取り組みやイベントを随時更新中。医療現場の日常をお届けしています。



## 回復期リハビリテーション病棟 診療実績 (令和7年11月)

新規入院患者に対する重症度割合	54.2%	
重症患者でFIM16点以上改善している割合	71.6%	
在宅復帰率	89.6%	
アウトカム評価(実績指数)	52.1	
患者1人あたりの提供単位	7.6	
患者構成	脳血管疾患	44.5%
	運動器	33.5%
	廃用症候群	22.0%



医療法人社団 綾和会

## 掛川東病院

〒436-0030  
静岡県掛川市杉谷南1丁目1-1

☎ 0537-23-7111  
FAX 0537-23-7116



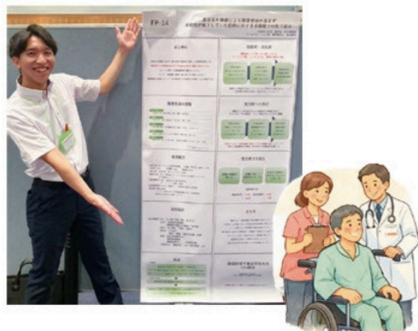
contents

特集

- FOCUS 人と地域を支えるリハビリテーションの実践知  
医療とフィットネスがつなぐ新しい地域の居場所
- 「東病院のひとこま」で2か月間の出来事を振り返り

病院で活躍する「人」や、地域とともに進める「取り組み」に焦点を当ててご紹介いたします。患者様や職員、地域の方々がつながり、より良い医療と暮らしを築くための挑戦や想いをお届けします。

## 人と地域を支えるリハビリテーションの実践知 3つの発表から学ぶ、多職種連携（MDT）と地域包括ケア



### 重度麻痺に対する多職種アプローチと生活動作(FIM)の改善

医療現場ではケアの効率化や標準化が進む一方で、「人として対等に扱われている感覚」や「安心できる環境」が損なわれやすいという課題があります。特に重度障がいを負った患者様や、その受容過程における「否認期」の心理的な揺らぎを理解し、多職種が連携して丁寧に寄り添うことが、前向きな行動変容につながる重要な要素であることが示されました。今後も「自立した生活の再構築」という目標を多職種で共有し、支援を続けていきます。



### 一般介護予防事業への参画から見えた地域包括ケアの意義

一般介護予防事業におけるリハビリ専門職の関わりでは、参加者の身体機能や生活活動の変化を数値で評価し、成果を「見える化」することで、地域全体に展開可能な支援モデルを示すことができます。目標設定の支援や自主的な運動習慣の定着は、地域包括ケアシステムにおける介護予防・健康増進の中核を担います。「掛川健康カレッジ」などの地域事業への参画を通じ、地域住民の健康寿命の延伸に貢献していきます。



### 退院後を見据えた「車の乗降」動作分析と支援

退院後の生活で必要となる車の乗り降りは、患者様にとって恐怖心を伴いやすく、在宅生活の大きな壁となる動作です。本発表では、姿勢や視覚、感覚情報といった専門的な観察を基に、「車の乗降動作」を退院支援の一場面として多角的に検証しました。介助者の立ち位置や声かけが、精神的な安心感に大きく影響することも明らかになりました。生活背景に即した環境調整と、「できる方法」を共に考える姿勢を大切にしていきます。

## 医療とフィットネスがつなぐ新しい地域の居場所 話せて、通えて、元気になれる「予防の場」



掛川市では高齢化が進むなか、「楽しく話せて、気軽に通えて、健康づくりにもつながる場所」が不足していました。こうした課題を受け、掛川東病院とフィットネスジムが連携し、地域のアクティブシニアを対象とした新しい取り組みが2024年にスタートしました。これは、社会保障サービスに頼らず、自主的に健康を守ることを目指した活動です。病院スタッフが月1回ジムを訪れ、腰痛や肩こり予防の講話、身体測定、健康相談を実施しました。入会前の方も参加できる体験会とし、運動に不安がある方でも



踏み出しやすい工夫を取り入れていきます。2025年には、この体験会を通じて入会した16名を対象にアンケート調査を行い、活動の効果を検証しました。参加者の1年間の退会者はゼロ。継続率100%という高い評価が得られました。アンケートでは、「人と話す機会が増えた」「家にこもらなくなった」といった交流面の変化が多く寄せられています。身体面では、「長く歩けるようになった」「膝の痛みが軽くなった」「血圧が安定した」など、生活の質が向上したという声も多数あがりました。また、「横断歩道

が渡るようになった」「服の着替えが楽になった」といった日常動作の改善もみられ、予防の場としての意義が示されました。一方で、「腰痛が続いている」といった個別の課題も認められ、継続的なケア体制をどのように整えていくかという新たな課題も明らかになりました。企画を担当する理学療法士は、「予防の取り組みが当たり前になる文化」をつくることを目標に、日々の業務に取り組んでいます。掛川東病院では、高齢者だけでなく、働き世代・学生・子どもまで、一人ひとりが自分の身体の状態を知り、個々に合った予防方法を行える地域を目指して、これからも邁進していきます。



### ロマンディスコでノリノリ DANCING

ミラーボールがきらめく中、通所リハビリが小さなディスコに変身。ペンライトを手に歌ったり体を動かしたり、皆さんの笑顔がはじけました。ネイルやメイクも楽しみ、気持ちまで明るくなるひとときでした。



### ケアマネさんのためのなんでも相談会

「在宅低栄養」をテーマに相談会を開催。食欲が落ちやすい季節の工夫や、訪問時に気づきたい生活のサインなど、明日から役立つヒントがたくさん生まれました。



### ボランティアによる特別なひととき

太極拳やお琴、紙芝居など、多様なボランティアの方々が来院され、院内には笑顔とあたたかな時間が広がりました。歌や適度な運動を通して、心地よい刺激をいただきました。



### 秋のお芋ほり

支援学校・幼稚園の皆さんと一緒に、東病院の畑でお芋ほり！寒空の下、世代を超えた交流でほっこり笑顔になる時間が流れました♪